

## 研究開発課題中間評価結果

事業名（年度）	ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業 （令和4年度～令和8年度）
研究開発課題名	大規模疾患コホート・アカデミア連携を基盤とするオミックス解析・ サーベイランス体制の整備による新興感染症重症化リスク因子の探 索
代表機関名（所属 役職）	国立大学法人 東京大学（医科学研究所・教授）
研究開発代表者名	山梨 裕司

**【総合評価】** 良い

### 【評価コメント】

バイオバンク・ジャパン（BBJ）で構築してきた、ゲノム解析やオミックス解析に高い実績を有する多数の専門家や研究者との連携と協働によるレベルの高い解析体制を確立している。さらに、昨年、新たにコロナ制圧タスクフォースと日本呼吸器学会が参画したことで、COVID-19ワクチン接種者の検体等を用いたワクチン応答性解析や、呼吸器感染症に関する解析体制が強化されたことは評価できる。

京都大学主導で、3つの解析系サポート機関（京都大学、理化学研究所、本機関）の3機関で免疫システムズ・バイオロジー・コンソーシアムを構築して、各機関が分担して解析を行う協働支援体制が整いつつあることは評価できる。

各拠点のワクチン研究開発に、本機関の解析等がどのように貢献できるのか、また、貢献するためにどのような解析等が求められるのか、現時点ではその道筋が明確ではない。各拠点が本機関や免疫システムズ・バイオロジー・コンソーシアムに対してどのようなサポートを期待しているのか十分に把握・理解し、各拠点とより詳細な情報交換を行い、拠点支援体制の構築を進めてほしい。

以上